

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 ・ 最終)

東畑中学校区 校番11 学校名 呉市立東畑中学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(1年間)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	④ 学力の向上を図る。	(1)基礎的・基本的な学力を定着させる。 (2)個を大切にす る「考える授業づくり」を推進する。	学力調査・定期試験(5教科)における通過率30%未満の生徒の割合は12.5%であり、評価はBである。教科においては、国語・社会については通過率30%未満の生徒の割合は平均7%であるのに対して、数学・理科・英語については平均16%であった。また「課題などの提出物を期限までに提出している」と回答した生徒の割合は79%で評価はBである。 生徒アンケート「落ち着いて学習できている」と回答した生徒の割合は85%であり、評価はAである。しかし、教職員アンケート「学習規律を守らせている」と回答した教員の割合は100%であった。落ち着いて学習に向かう姿勢を定着させるために、号令を立腰・黙想でスタートし、語先後礼で「お願いします。」の挨拶を行っている。しっかりできていなければやり直しをさせる教員もいる。 振り返りの視点を明記した振り返りシートを作成した。授業改善や学習評価等に係る研修において、そのシートの活用と振り返りの視点を必ず生徒に示すことを呼びかけた。生徒アンケート「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に伝わりやすく伝えるように発表を工夫している」と回答した生徒の割合は78%であり、評価はBである。	通過率30%未満の生徒の割合は国語・社会のような文系教科よりも数学・理科・英語のような理系、積み上げ教科のほうが高くなっていることから、基礎的・基本的な学力が十分に定着していないまま進級している一定数の生徒がいることがうかがえる。授業内容を工夫したり、ICT教材(キュビナやスタディ・ギア)を活用させたりして、基礎・基本の学び直しを徹底させたい。また、提出物については声かけを各教科担当、担任、保護者と連絡を密に行ったり、放課後補充等を実施したりして、課題は提出するものであることを認識させたい。 現在は多くの生徒が落ち着いて授業を受けることができている。しかし、授業によっては主体的に取り組むことが難しい生徒もあり、私語が目立つ場面も見られる。授業内容や指導方法、学習形態などを工夫し、意識して個別の支援を行うことで、すべての生徒が参加しやすく、学びやすい授業づくりを目指す。
**	④ 自己有用感・自尊感情を高める。	(3)自己指導能力育成を図る。	ほぼ目標値を達成している。生徒は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、挨拶や返事など生徒の自己評価の通りできている。しかしながら、教科によっては、しっかりと挨拶や返事ができていないこともある。 自尊感情・自己有用感の指標である生徒アンケートの3項目についてすべて目標を下回った。教職員アンケートの生徒一人一人に活躍の場や責任を与えている」と回答した教職員は80%と目標値に達成していないことが原因の一つと考えられる。	教職員アンケート「授業規律を守らせている」では、肯定的評価が100%であった。しかし、教科によっては指導が徹底していないこともあるため、再度、教職員に指導の仕方について徹底していく。 まずは教職員による活躍の場や責任を持たせる取組を確実にやっていく。さらに、行事や部活動、授業においても、生徒の活躍や活動とあわせて、適切な評価を行っていくことにより、生徒の自尊感情・自己有用感を高めていきたい。
*	④ 基本的生活習慣の定着と体力の向上を図る。	(4)規則正しい生活習慣と安全への意識を高める。	はたっこLife好きカード「メディアに関する約束が守れた(メディア視聴は就寝30分前まで)」と回答する生徒の割合は83%で、目標の85%を少し下回ったがほぼ達成できた。その他の項目では、早起き(7時までに起床)82%・早寝(23時までに就寝)71%・朝食摂取95%の生徒が達成できている。期末試験発表後の回答だったため、試験勉強をしていて就寝時間が遅くなり、早寝の達成率は他の項目に比べ低くなった。 「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」の肯定的評価が100%と、目標に達した。すべての生徒が防災意識を高めてきていると考える。マイタイムラインの作成では、家庭の協力を得ながら、ほぼ全員が作成することができた。また、各学年の防災教室では、体験を重視し、地域や自衛隊と連携しながら学習を進めた。土砂災害を想定した避難訓練では、災害時の避難経路を考えながら避難を行った。 新体力テストの結果では、中学校区の課題種目(20mシャトルラン)の数値目標を達成した生徒が全体の43%だった。目標値の70%を下回っている。体育の授業や昼休憩の運動、部活動に積極的に参加する生徒はいる。運動量の面からは、体育の授業や部活動では、補えないところがあると考えられる。また、新型コロナウイルスも大きく影響していると考えられる。	保健生活委員会で掲示物の作成、放送や学級で、規則正しい生活の大切さについて呼びかけた。これらは次の取り組みの際にも継続して行い、委員会で別のアイデアも生徒と一緒に考えたい。生活習慣は保護者の意識で大きく変化するため、取組前の便利だけでなく、保護者へのメール配信も次回は行いたい。 安全や防災、減災についての意識を風化させないために、防災年間計画を見直しながら継続的に防災教室や避難訓練を実施していく。また、PTA活動ともタイアップしながら、家庭を巻き込んだ防災教育について、工夫しながら進めていく。 体育の授業では、持久力を高められるよう授業内容とリンクさせながらレベルアップさせていく。授業だけでは難しい面もあるため、異チャレンジマッチスタジアムの挑戦の継続、部活動の充実、生徒会活動による昼休憩の運動、余暇を上手く使いながら、家庭でも運動する意義や楽しさを味わえるような手立てを考えていく。
業務改善	東畑中学校に勤務してよかったと感じることが できる職場環境づくりを行う。	(5)生徒と向き合う時間を確保する。 (6)長時間勤務の削減を図る。	教職員アンケート「生徒と向き合う時間が確保されている」と回答する教員の割合は100%だった。企画委員会や職員会議・研修など様々な会議、研修の実施について、生徒と向き合う時間を確保するために、時間帯を工夫したり、部活動がない日を選んだり、議題をあらかじめ職員に知らせ、会議が短時間で終わるように工夫したりしたことが影響していると考ええる。 時間外勤務については、45時間以上の教職員が11人と、目標を大きく下回っていた。行事の準備や成績処理で時間を要したことも原因であると考えられる。また、定時退校日やタイムマネジメントについての意識が十分でないと考ええる。さらに、より質の高い教育活動を求めて教材研究を行ったり、学年や分掌の業務のシェアがうまくいっていないことも原因であると考ええる。	今後もできるだけ生徒の活動に教職員が立ち会い、評価していく場が確保できるように、会議や研修を効率的に行っていく。また、定期的な会議においても議論の必要がないときには、文書提案するなどの工夫を行っていく。 主任層の業務が多く、負担となっている現状に対して、分掌や学年で業務をシェアしたり、教職員のタイムマネジメント意識を高めたりしていく。また、時間外勤務の削減を意識していくため、自身の時間外勤務を把握していく。さらに定時退校日の実施を徹底していけるように声かけを引き続き行っていく。